

# 新年のご挨拶を申し上げます



小川町長  
松本恒夫

皆様におかれましては、輝かしい新春を健やかに迎えのこととお喜び申し上げます。本町では、本年四月のオープンに向けて、小川町子育て総合センターを整備しております。センターでは現在パトリアおがわで実施している母子保健事業と子育て支援課の事務事業を集約し、妊娠前から子育て期までの切れ目のない支援をワンストップで展開いたします。センターにおけるソフト事業の充実により、子育て世帯の不安解消や転出傾向の改善、出生数の増加、移住・定住の促進につなげてまいります。

昨年一月に発足した第4次安倍内閣は、子育て支援を中心に2兆円規模の政策を実施するとしています。この政策は、本町の取組に一層の弾みがつくと期待しております。

昨年を振り返りますと、一月には、住民の郷土への愛着心向上や、更なる地域の発展をめざし、上田清司埼玉県知事立ち合いのもと、和光市と3町村（小川町・東秩父村・寄居町）との相互交流に関する共同宣言に署名しました。地域資源や特性を生かす県内初の取組として、相互交流を充実してまいります。四月には、防災体制の強化や支援活動を一層充実するため、新たに防災地域支援課を設

新年明けましておめでとうございます。町民の皆様におかれましては、希望に満ちた輝かしい新春をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。また、日ごろより、町政の発展と議会運営に対して、多大なるご支援ご協力を賜り深く感謝申し上げます。

昨年九月定例会において、議員各位の推挙により、2度目の議長に就任し、改めて、その職責の重さに身の引き締まる思いであり、今後とも町民の目線に立った議会運営に取り組んでまいります。

昨年を振り返りますと、小川町議会の毎定例会で、多くの議員が町政に対し一般質問を行い、活発な議論がされてきました。町政全般に渡り、事務執行やその運営について、「問い、ただし」、遵法性や政策効果等、法や制度の趣旨を生かした運用がなされているかの監査機能を果たしてまいりました。さらに、町の課題を拾い上げ、その解決をめざす政策提案も数多くされ、そして、提案が活かされ、実行されたものや改善されてきたものもあります。今後も、議員一人一人が多方面にアンテナを張りながら、資質の向上をめざしてまいります。さらに、町民にとってより良いものとなるように、「議員ひとりのもの



小川町議会議員  
松本修三

置しました。一〇月、台風21号は、衆議院議員総選挙投票日に接近しましたが、避難準備情報を発令し、小川消防団、消防署・警察署と連携を密にして対応に努めました。

五月には、ユネスコ総会議長のスタンレー・ムツンバ・シマター氏をお迎えし、ユネスコ無形文化遺産である細川紙の手漉和紙技術を紹介しました。児童とともに手漉和紙を体験されたシマター議長は、次世代への技術継承に大きな関心を寄せられた様子で、温かいメッセージを残していただきました。

また、五月一六日には、内閣総理大臣から小川町が「有機の里小川ワイン特区」に認定されました。町にまた一つ新たな魅力が加わり、細川紙、有機農業などとあわせて町の魅力を大いに発信してまいります。

七月一日には、「一月二七日」を「小川和紙の日」とする条例の署名式を執り行い、同日条例を公布しました。二日にかけては、東秩父村との協力のもと「和紙サミット」を開催し、島根県浜田市市長、岐阜県美濃市長をはじめ関係者の皆様との交流が深められ、大変意義ある大会となりました。

一月二五日から二七日にかけては、「小川和紙の日」を記念して、小川和紙フェスティバルを盛大に開催いたしました。町議会議員各位の協力のもと、町民の皆様には小川和紙を見て、触って、楽しんでいただけたものと存じます。今後も、小川和紙を身近に感じていただける取組に努めてまいります。

一月二日には、多くの皆様にご参加いただきました第25回記念小川和紙マラソン大会を開催しました。参加された方や沿道で応援された皆様には、川内優輝選手が出走された記念大会を大いに楽しんでいただけたものと存じます。ここに改めて関係者の皆様から感謝申し上げます。

（考え）である一般質問を、議会としての政策資源に変換する方途等を考えていきたいと思っております。

また、二月には、議会の広報誌「おがわがわかい」が、第31回町議会広報全国コンクールにおいて、43都道府県291町村議会の応募の中から「編集・デザイン部門」で奨励賞を受賞しました。これは、平成二八年第一回定例会号から大幅なリニューアルを図り、多くの町民に手に取って読んでいただくことを願ひ、若い世代にも関心を持ってもらえるような紙面づくりにしたことが評価されたものであります。

その受賞以来、全国津々浦々の18の議会から「議会広報発行特別委員会」の研修視察に来町していただきました。本議会からの一方的な説明だけに終わらず、我々も他の議会の活性化策等、多くを学びました。同時に、本町のことも全国にアピールし、発信することができました。

さらに、一月には、「第12回マニフェスト大賞」授賞式において、クリエイティブディレクターの箭内道彦氏から特別賞をいただきました。これは、地方自治体の議会・首長等や地域主権を支える市民等の優れた活動を表彰するもので、応募総数2597件の中から108件にノミネートされ、受賞したものであります。

これからも、より議会の充実させることに努め、「おがわがわかい」を通じて、分かりやすく議会の活動をお知らせしてまいります。

六月開催の第2回定例会では、議員の提出議案で「小川和紙の日」を定める条例制定について」が提出され、全議員の賛成をもって可決いたしました。これは、細川紙の手漉き和紙技術が、平成二六年一月二七日にユネスコ無形文化遺産に登録されたことにより、一月二七日を「小川和紙の日」と定めたも

さて、平成二六年六月から3つの基本方針に基づき、明るく、生き生きとした町づくりの実現に取り組んでまいりました。

基本方針の1点目「町の活性化のために」においては、小川町第5次総合振興計画を策定し、計画に基づき企業誘致を推進し、公共交通網の整備に取り組みました。デマンドタクシーについては本年四月の本格運行をめざし、小川町駅北側整備については関係機関と具体化のための協議を進めています。また、公共施設等の今後の在り方について、民間活力の活用の検討に取り掛かりました。

2点目の「安心安全のまちづくり」では、国の動向を注視し、子育て支援をはじめ移住・定住施策を推進してまいりました。また、健康長寿ウオーキングマップを活用し、高齢者の皆様を中心に健康づくりと健康寿命を伸ばす取組を進めてまいりました。

3点目の「豊かな自然と歴史・文化を観光資源として活用」では、旧下里分校を本年三月の改修・整備を目標として進めています。完了後は、下里・青山板碑製作遺跡や槻川沿いなどを活用する観光・交流ゾーンの拠点として活用を図ります。今夏に記念すべき第70回を迎える「小川町七夕まつり」などとあわせ、町のにぎわいを創出してまいります。

今後も、第5次総合振興計画で掲げた将来像である「自然の恵みと文化を未来につなぐ人が輝くまち おがわ」の実現と町民の皆様が「生まれて良かった」と思えるまちづくりに邁進してまいりますので、一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

どうぞこの一年が、皆様にとりまして、健康で元氣にあふれ幸多い年となりますことをご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

細川紙は、本町のかけがえのない財産であり、その技術の継承、発展に尽力された先人に感謝し、そして、町民全員が誇りを持ち、細川紙を含む小川和紙の歴史と文化の価値を認識することが重要であります。今後、更なる細川紙を含む小川和紙の文化の継承や産業振興、そして、国内外への情報発信など様々な取組により、町全体の地域振興に大きく寄与されることを願うものであります。

さて、日本経済は緩やかに回復し、雇用・所得情勢は堅調に推移していますが、すべての地域にまでその成果が十分に浸透しているとはいえず、景気の回復にはいまだ実感できない状況にあります。本町の財政状況は依然として厳しい中ではありますが、継続的に行政改革の推進を図りながら、長期展望に立った計画的、効率的な行政運営が図られています。また、少子高齢化等の問題を克服するため、地方創生に向けた多岐にわたる施策が積極的に展開されています。議会といたしましても、「地方創生（小川町創生）の実現」を成し遂げることは、我々の悲願であり、議会の果たすべき役割と責任を自覚し、町民の皆様への負託にこたえ期待に沿えるよう力を注いでまいります。

小川町の将来像について活発に議論を重ね、地域資源を掘り起こして更なる推進を図り、若い世代にも分かりやすく、関心をもってもらえるよう、身近で、より開かれた町議会づくりに努めてまいります。議員一丸となって議員資質の向上を図りながら、政策立案や政策提言を実行する議会をめざしてまいります。と思っております。

結びに、本年が皆様にとりまして、健やかで希望に満ちた明るく実りの多い年となりますよう心よりご祈念申し上げます。新年のごあいさつといたします。